

春かぼちゃ栽培基準表

1 作型（品種：えびす，栗天下，くり將軍，くり將軍ネオ，グラッセ等） [凡例 … ○：定植，▼：追肥，△：交配，●：玉直し，□：収穫]

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
土壌消毒	深耕・排水対策	堆肥全面散布 灰布散 布	トンネル 基肥施用・作畝準備	追肥 ▼	追肥 ▼	玉直し ●	□□□□□□□□	収穫
			○定植	△交配				

2 本ば

(1)土壌消毒

連作ほ場や前作で線虫被害が見られたほ場は，土壌くん蒸剤のテロンで駆除しておく。土壌くん蒸剤は使用方法・使用量を守って正しく使う。

2ほ場準備

- ①かぼちゃは排水不良地を嫌うので深耕し，耕盤を壊しておく。
- ②堆肥と石灰は，少なくとも定植30日前までには全面散布してなじませておく。

(2)基肥

基肥は定植14日前までに，植え付け位置を中心として1.5m幅に散布する。

施肥設計 (kg/10a，%)			
肥料	基肥	追肥	成分(N-P-K)
完熟牛ふん堆肥	2,000		—
苦土石灰 または セルカ石灰 (けい酸加里)	100~120 (40)		— (0-0-20)
苦土重焼燐	20~40		0-35-0
かぼちゃ配合 N K 2号	60	20×2回	15-15-15 16-0-16

(3)作畝

- ①ネマトリンエース粒剤による線虫対策は，20kg/10aをほ場全面に均一に散布し，土壌中に均一に分布するように丁寧に混和する。
- ②土壌水分がある状態で作畝し，定植14日前までにマルチを張り，トンネル被覆して地温を確保する。
- ③透明マルチ（135cm～150cm）を使用する。
- ④排水の悪いほ場は排水路を確保する。特に水田では高畝にして，1畝毎に排水溝を設置する。

3 管理作業

(1)定植

- ①作式
畝幅：4～4.5m
株間：50cm(えびす・グラッセ) 60cm(栗天下・くり將軍・くり將軍ネオ)
植付株数：450～500株/10a 370～420株/10a
仕立方法：子づる2本仕立
- ②本葉4枚で摘芯した苗を晴天・無風の日に植え付ける。苗は事前に十分にかん水しておき，植え付け時は鉢土表面が地表面より深くないように，また根鉢を崩さないように丁寧に植え付ける。
- ③晩霜・強風対策にタフベルやパオパオをトンネル掛けし，ほ場周囲に防風ネットを設置する。

(2)トンネル内温度管理

- ①定植後はトンネル内が30℃以上の高温にならないように様にトンネル裾（風下側）を開けて換気を行う。気温に応じて徐々に行うように心がける。（いきなり開け幅を大きくしない）
- ②換気不足によりトンネル内が高温になると雌花の分化が遅れる，茎葉に高温障害が生じる，などの弊害が考えられる。

(3)整枝・誘引

- ①子づるが10～15cmの時に摘った2本を残し，他は除去する。
- ②つる先を摘え，枝間隔が均等になるように誘引する。
- ③着果節位までの孫づるは早めに除去し，着果位置から上は混み合わない程度に整枝する。
- ④作業は午前中に行うと茎葉が折れやすいので午後から行う。

(4)敷きワラ

土のはね上がり防止のために，つる先の伸長に合わせて早めに敷きワラをする。（※カバークロープ等の活用）特に着果位置付近は，疫病などの病害やイボ果対策のために少し厚めに敷く。

(5)交配

- ①大玉生産のため目標着果位置は12節以上とする。極端に低い節位に着果したものは早めに除去する。
- ②ミツバチなどの訪花昆虫だけに頼らず人工交配を行う。特に低温で日照が不足する年は着果が安定しないので必ず人工交配する。
- ③かぼちゃの花粉寿命は短く，また水分の影響を受けやすいため，人工交配は晴天の日の午前中に行う。また，交配は必ず当日開花した雄花を使用する。
- ④着果安定のために交配期の最低夜温は15℃以上を目標に管理する。交配前日の夕方はトンネルビニールを若干早めに閉めて夜温を保つ。
- ⑤花粉は濡れると受精能力が無くなるため，雨や夜露に注意する。
- ⑥交配は雌花の柱頭に，雄花の花粉をまんべんなく授粉させる。
- ⑦交配時，雌花の子房の大きさや形は，果実の肥大や形状に大きく影響するので，形が良く，500円玉以上の大きさのもので，果梗が短いものを選ぶ。
- ⑧交配後5～6時間は温度管理に注意し，30℃以上や23℃以下にしない。
- ⑨着果節位の5～6枚前の葉は30cm以上，着果節位の葉は35cm以上を目標に肥培管理する。
- ⑩交配日を必ず記録し，着果標示を設置して，収穫日数を確認する。

(6)摘果

- ①着果を確認したら，ソフトボール大の大きさになるまでに，不良果（変形・奇形）を摘果する。
- ②1つる2果残す場合，連続着果したものだけを残す。
- ③2番果の着果は10節以上あける。
- ④果実がソフトボール大になり色が濃くなり始めた頃，フルーツシートを必ず敷く（病虫害防止）。
- ⑤作業時は節根を引き抜かないように注意する。

(7)追肥

1回目は雌花開花期に施用する。その後樹勢を見て判断し，2番果対策として15～20日おきに施用する。

(8)排水対策

梅雨時期前に畝周辺およびほ場周囲の排水溝を確認し，降雨後速やかに排水できるようにする。

(9)日焼け，イボ果防止対策

- ①収穫時まで葉を健全に保ち，肥料切れさせないように管理する。
- ②梅雨明け後，日照が強くなる前に果皮の硬化を確認し，新聞紙を2重で果実を被覆する。
- ③果皮が軟らかい時期に障害を与えるとイボ果になり易いので，風害，病虫害，人災等，外界からの傷防止対策を行う。
- ④着果後30日間の薬剤散布は注意が必要。

4 収穫

交配後50～55日（積算温度1000℃以上）前後，果実の色が濃緑色になり，果皮に爪をたてても傷跡が残らず，果梗部の全体にコルク質のスジが入り茶色くなった物を収穫する。

かぼちゃ(野菜類)の病気に登録のある農薬（令和7年1月現在）

県園芸振興協議会 始良支部

系統(RACコード)	農薬名	使用時期	使用回数	成分回数	予防・治療	うどんこ病	疫病	褐斑細菌病	菌核病	つる枯病	白斑病	べと病
F: 1:チオファネート	トップジンM水和剤	収穫前日まで	5回以内	チオファネートメチルを含む: 6回以内(種子への処理は1回以内、は種後は5回以内)	予+治						●	
F: 2:ジカルボキシイミド	スミレックス水和剤	収穫14日前まで	3回以内	プロシミドンを含む: 3回以内	予+治				●			
F: 3:イミダゾール	トリフミン水和剤	収穫前日まで	5回以内	トリフルミゾールを含む: 5回以内(種子粉衣は1回以内)	予+治	●						
F: 3:トリアゾール	サルバトーレME	収穫前日まで	3回以内	テトラコナゾールを含む: 3回以内	予+治	●						
	スコア顆粒水和剤	収穫3日前まで	3回以内	ジフェノコナゾールを含む: 3回以内	予+治	●						
	ラリー水和剤	収穫前日まで	3回以内	ミクロブタニルを含む: 3回以内	予+治	●						
F: 3:トリアゾール F:M03:ジチオカーバメート	テーク水和剤	収穫21日前まで	2回以内	シメコナゾールを含む: 2回以内 マンゼブを含む: 2回以内	予+治	●	●					●
F: 4:アシルアラニン F:M05:クロロニトリル	フォリオゴールド	収穫7日前まで	3回以内	メタラキシル及びメタラキシルMを含む: 4回以内(種子への処理は1回以内、は種後は3回以内) TPNを含む: 3回以内	予+治		●					●
F: 7:ピラジンカルボキサミド	パレード20フロアブル	収穫前日まで	3回以内	ピラジフルミドを含む: 3回以内	予+治	●						
F: 7:ピラゾール-4-カルボキサミド	アフェットフロアブル	収穫前日まで	3回以内	ベンチオピラドを含む: 3回以内	予+治	●				●		
F: 7:ピラゾール-4-カルボキサミド F:M05:クロロニトリル	ベジセイバー	収穫7日前まで	3回以内	ベンチオピラドを含む: 3回以内 TPNを含む: 3回以内	予+治	●				●	●	●
F: 9:アニリノピリミジン	フルピカフロアブル	収穫前日まで	4回以内	メパニピリムを含む: 4回以内	予	●						
F:11:オキシイミノ酢酸	ストロビーフロアブル	収穫前日まで	3回以内	クレソキシムメチルを含む: 3回以内	予+治	●						●
F:11:メトキシアクリレート F:M05:クロロニトリル	アミスターオブティフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	アゾキシストロピンを含む: 4回以内 TPNを含む: 3回以内	予+治	●	●					●
F:11:メトキシカーバメート F: 7:ピラジンカルボキサミド	シグナムWDG	収穫前日まで	3回以内	ピラクロストロピンを含む: 3回以内 ボスカリドを含む: 3回以内	予+治	●						
F:21:シアノイミダゾール	ランマンフロアブル	収穫前日まで	3回以内	シアゾファミドを含む: 3回以内	予+治		●					●
F:21:スルファモイルトリアゾール	ライメイフロアブル	収穫前日まで	4回以内	アミスルプロムを含む: 4回以内	予		●					●
F:27:シアノアセトアミドオキシム F:40:バリンアミドカーバメート	ベトファイター顆粒水和剤	収穫3日前まで	3回以内	シモキサニルを含む: 3回以内 ベンチアバリカルブイソプロピルを含む: 3回以内	予+治		●					
F:40:バリンアミドカーバメート F:M03:ジチオカーバメート	カンパネラ水和剤	収穫21日前まで	2回以内	ベンチアバリカルブイソプロピルを含む: 3回以内 マンゼブを含む: 2回以内	予+治		●					●
	ベネセット水和剤	収穫21日前まで	2回以内	ベンチアバリカルブイソプロピルを含む: 3回以内 マンゼブを含む: 2回以内	予+治		●					●
F:40:バリンアミドカーバメート F:M05:クロロニトリル	プロポーズ顆粒水和剤	収穫7日前まで	3回以内	ベンチアバリカルブイソプロピルを含む: 3回以内 TPNを含む: 3回以内	予+治	●	●					●
F:40:桂皮酸アミド F:M01:無機化合物	フェスティバルC水和剤	収穫3日前まで	3回以内	ジメトモルフを含む: 3回以内	予+治		●					●
F:50:ベンゾイルピリジン	プロバティフロアブル	収穫前日まで	2回以内	ピリオフェノンを含む: 2回以内	治療	●						
F:M01:無機化合物	コサイド3000	-	-	-	予			●				
	サンヨール	収穫前日まで	4回以内	DBEDCを含む: 4回以内	予	●						
	Zボルドー	-	-	-	予			●				●
	Zボルドー粉剤DL	-	-	-	予		●					
F:M01:無機化合物 F: 4:アシルアラニン	リドミル銅水和剤	収穫14日前まで	3回以内	メタラキシル及びメタラキシルMを含む: 4回以内(種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)	予+治		●					
F:M03:ジチオカーバメート	ジマンダイセン水和剤	収穫21日前まで	2回以内	マンゼブを含む: 2回以内	予		●			●		●
	ペンコゼブ水和剤	収穫21日前まで	2回以内	マンゼブを含む: 2回以内	予		●					●
F:M04:フタルイミド	オーソサイド水和剤80	収穫14日前まで	5回以内	キャプタンを含む: 5回以内(種子粉衣は1回以内)	予							●
F:M05:クロロニトリル	ダコニール1000	収穫7日前まで	3回以内	TPNを含む: 3回以内	予	●					●	●
F:M07:グアニジン	ベルクート水和剤	収穫7日前まで	4回以内	イミノクタジンを含む: 4回以内	予+治	●						
F:M07:グアニジン F:19:ペプチジルピリミジンヌクレオシド	ポリベリン水和剤	収穫7日前まで	3回以内	イミノクタジンを含む: 4回以内 ポリオキシンを含む: 3回以内	予+治	●				●		
F:M07:グアニジン F:50:ベンゾイルピリジン	ラミック顆粒水和剤	収穫7日前まで	2回以内	イミノクタジンを含む: 4回以内 ピリオフェノンを含む: 2回以内	予+治	●						
F:M07:グアニジン F:M01:無機化合物	ベフドー水和剤	収穫7日前まで	4回以内	イミノクタジンを含む: 4回以内	予+治	●	●				●	
F:P07:エチルホスホナート	アリエッティ水和剤	収穫前日まで	3回以内	ホセチルを含む: 3回以内	予+治		●					●
F:U06:フェニルアセトアミド F: 3:イミダゾール	パンチョTF顆粒水和剤	収穫前日まで	2回以内	シフルフェナミドを含む: 2回以内 トリフルミゾールを含む: 5回以内(種子粉衣は1回以内)	予+治	●						
F:U13:シアノメチレンチアゾリジン F: 9:アニリノピリミジン	ショウチノスケフロアブル	収穫前日まで	2回以内	フルチアニルを含む: 2回以内 メパニピリムを含む: 4回以内	予+治	●						
I:UN:硫黄 F:M02:無機化合物	イオウフロアブル	発病前～発病初期	-	-	予	●						
	コロナフロアブル	-			予	●						
	サルファーゾル	発病前～発病初期			予	●						
I:UN:硫黄/F:M01:無機化合物 F:M02:無機化合物	園芸ボルドー	-	-	-	予	●						
I:UN:キノキサリン F:M10:キノキサリン	モレスタン水和剤	収穫3日前まで	3回以内	キノキサリン系を含む: 3回以内	予+治	●						

かぼちゃ(野菜類)の害虫に登録のある農薬 (令和7年1月現在)

県園芸振興協議会 始良支部

系統(RACコード)	農薬名	使用時期	使用回数	成分回数	アザミウマ類	アブラムシ類	ウリハムシ	コナジラミ類	ハスモンヨトウ	ハモグリバエ類	ウリノメイガ	備考
I: 1A:カーバメート	ランネート45DF	収穫前日まで	3回以内	メソミルを含む:3回以内		ワタアブラムシ						
I: 1B:有機リン	エルサン乳剤	収穫3日前まで	3回以内	PAPを含む:3回以内	●	●						
	スミチオン乳剤	収穫14日前まで	3回以内	MEPを含む:3回以内	●	●						
	マラソン乳剤	収穫前日まで	5回以内	マラソンを含む:5回以内		●	●					ハダニ類
	マラソン粉剤3	収穫前日まで	5回以内	マラソンを含む:5回以内		●	●					ハダニ類
I: 3A:ピレスロイド	アグロスリン乳剤	収穫前日まで	5回以内	シベルメトリンを含む:5回以内	●	●			●			
	アディオン乳剤	収穫前日まで	5回以内	ペルメトリンを含む:5回以内		●						
	トレボン乳剤	収穫前日まで	3回以内	エトフェンプロックスを含む:3回以内			●	●				ニガウリでウリノメイガ登録あり
	マブリック水和剤20	収穫21日前まで	2回以内	フルバリネートを含む:2回以内		●						
	ロディー乳剤	収穫3日前まで	3回以内	フェンプロパトリンを含む:3回以内		●						
I: 3A:ピレスロイド I: 1B:有機リン	スミロディー乳剤	収穫14日前まで	3回以内	フェンプロパトリンを含む:3回以内 MEPを含む:3回以内				●				
I: 4A:ネオニコチノイド	アドマイヤー1粒剤	定植時	1回	イミダクロプリドを含む:3回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布は2回以内)	●			●				
	アドマイヤー顆粒水和剤	収穫前日まで(ただし、露地栽培については着果後)	2回以内			●						
	アドマイヤーフロアブル	収穫前日まで(ただし、露地栽培については着果後)	2回以内			●						
	スタークル顆粒水溶剤	収穫前日まで	1回	ジノテフランを含む:3回以内(定植時の土壌混和及び育苗トレイへの灌注は合計1回以内、散布は2回以内)		●		●				
	スタークル粒剤	定植時	1回					●				
	ダントツ水溶剤	収穫3日前まで	3回以内	クロチアニジンを含む:4回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)		●	●					
	モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2回以内	アセタミプリドを含む:3回以内(粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)		●	●					
	モスピラン粒剤	は種時	1回			●					●	
I: 5:スピノシン	ディアナSC	収穫前日まで	2回以内	スピネトラムを含む:2回以内					●			
I: 6:マクロライド	アフーム乳剤	収穫前日まで	2回以内	エマメクテン安息香酸塩を含む:2回以内	●							キュウリでウリノメイガ登録あり
I: 9B:ピリフルキナゾン	コルト顆粒水和剤	収穫前日まで	3回以内	ピリフルキナゾンを含む:3回以内		●		●				
I:15:ベンゾイル尿素	カスケード乳剤	収穫前日まで	3回以内	フルフェノクスロンを含む:3回以内						トマトハモグリバエ		キュウリでウリノメイガ登録あり
I:17:シロマジン	トリガード液剤	収穫前日まで	3回以内	シロマジンを含む:3回以内						●		
I:21A:METI	サンマイトフロアブル	収穫3日前まで	2回以内	ピリダベンを含む:2回以内				●				うどんこ病
I:23:テトラロン酸・テトラミン酸誘導体	モベントフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	スピロテトラマトを含む:3回以内		●		●				ハダニ類
I:28:ジアミド	ベネビアOD	収穫前日まで	3回以内	シアントラニリプロールを含む:3回以内					●	●		
I:29:フロニカミド	ウララDF	収穫7日前まで	2回以内	フロニカミドを含む:2回以内		●						
その他	サンクリスタル乳剤	収穫前日まで	—	—		●		●				うどんこ病

かぼちや に登録のある農薬の混用事例

[illegible]

2025年01月24日現在
(2025年01月15日登録反映分)

- : 混用して問題なかった。
- ◎: 使用直前の混用なら問題なかった。
- : 混用で凝集するが、攪拌すれば散布に問題なかった。
- △: 物理性、効果低下などの点で問題がある。
- ×: 害害の点で問題がある。
- ✕: 混用できない。

【注意】
この混用事例は、農文協で調べた事例を参考として紹介するもので、混用を薦めるものでも、結果を保証するものではありません。生育段階や気象条件によっては被害を生じる場合や、対象作物によって混用の成否が異なる場合があります。本事例を参照したことによって生じた、いかなる被害も農文協は責任を負いません。